

IgE 高値と全身症状を経て長期治療を続けた成人アトピー喘息の経過 (41 歳)

症例 ID：001-40-KA2 | 記録日：2016 年 1 月 4 日

1. 診断・治療前経過

小児期からアトピーと喘息があり、会社員となった後も市販薬や医療機関の外用薬を使用していました。症状を抑える治療を繰り返す中で、姉の紹介により松本医院を受診されました。

治療開始後は全身が赤黒くなり、IgE は約 2,000 から最高 66,300 まで上昇しました。39℃以上の発熱、全身の痛み、腰や鼠径部からの多量の浸出液も経験しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	市販薬および医療機関で処方された外用薬を使用していました。ステロイドの具体的な製品名と期間は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小児期から成人期まで断続的な使用歴があります。
中止時期	松本医院受診時に症状を抑える外用治療から移行しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小児期	来院前	アトピーと喘息があり、毎年 6～7 月頃に喘息が出ていました。
成人後	来院前	市販薬や外用薬を使用しながら症状を抑えていました。
2002 年頃	治療開始	松本医院を受診し、治療を開始しました。
2004～2005 年頃	ピーク	全身の赤黒い皮膚、39℃以上の発熱、強い痛み、腰や鼠径部からの浸出液がみられ、IgE は最高 66,300 となりました。
その後 10 年以上	長期経過	数値と症状には波がありながら、治療を継続しました。
2015 年時点	経過中	IgE は 13,000 台で、全身の乾燥とかゆみ、時折の喘息が残っていました。

4. ピーク時期

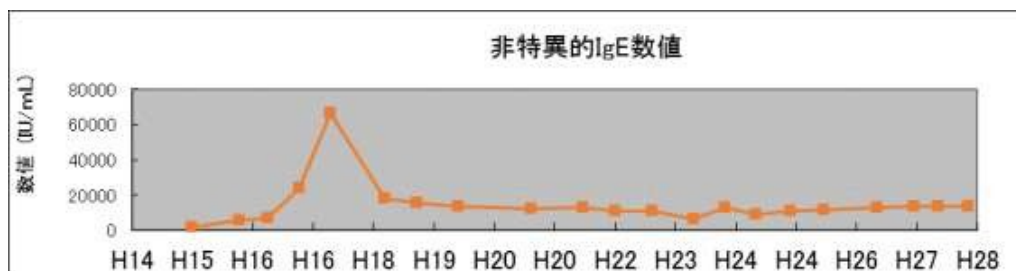
ピークは、IgE が 66,300 に達し、39℃以上の発熱、全身の痛み、腰や鼠径部からの多量の浸出液が重なった時期です。

5. 困りごと

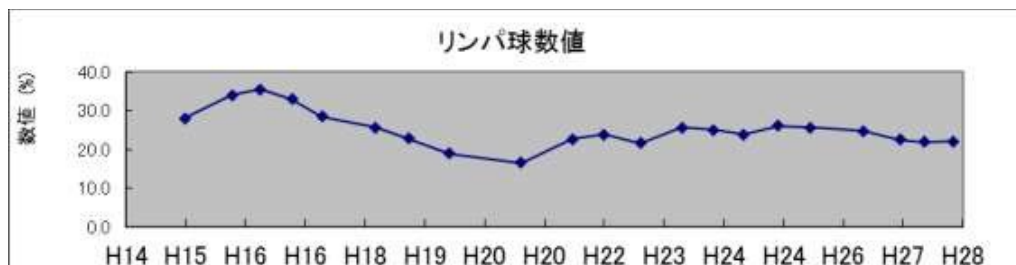
- ・強い全身症状と発熱のため、夜間に総合病院を受診したことがありました。
- ・腰や鼠径部から浸出液が多く出て、衣類や処置の負担がありました。
- ・喘息のため診断書を用いて仕事を休むことがありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

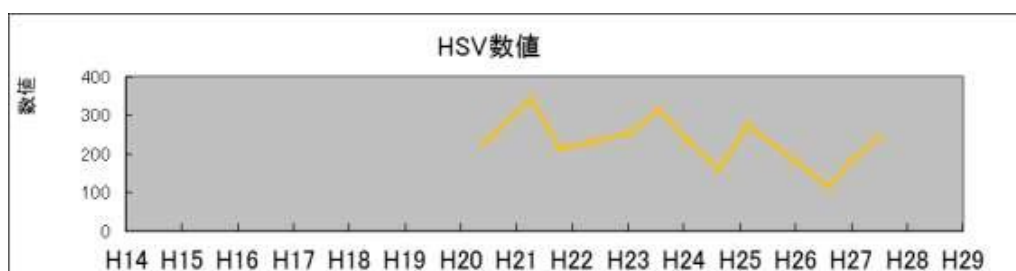
項目	値・推移
IgE	2002 年 12 月の 2,121 から上昇し、2005 年 4 月に 66,300。2015 年 11 月は 13,525。
リンパ球	時期により 16.5～27.6%の範囲で推移しました。
HSV	2008 年以降は 116.4～342.0 の範囲で推移しました。
TARC	2015 年 5 月に 2,001、2015 年 11 月に 1,997。



IgE の長期推移を示すグラフ。



リンパ球の長期推移を示すグラフ。



HSV 抗体値の長期推移を示すグラフ。

7. 経過のまとめ

治療開始後に全身症状と検査値の大きな変動を経験し、IgE は最高 66,300 となりました。その後は長期間にわたり治療を継続し、IgE は 10,000 台まで低下しました。

2015 年時点では全身の乾燥やかゆみ、時折の喘息が残っていましたが、通院を経て日常生活の負担が軽減した症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。